

ふれあいの橋の会

REPORT さかい



▲ ダイヤモンド・プリンセス号 全長: 290 メートル 旅客定員: 2,706 名 乗組員数: 1,100~1,238 名

と き 2026年6月18日(木) 10:00~11:30

訪問先 デイハウスせいどう・生活支援ハウス 境港市高松町 892-3

出席者 【委 員】川口 昭一、中本 勝、植田建造、遠藤 博江

【さかいエリア】 池淵 美香 (介護老人福祉施設さかい幸朋苑 介護課長)

倉光 桂吾 (デイハウスせいどう 管理者・係長)

【法人本部】 荒井 祐二 (監 事)

SAKAI Area Report



▲生活支援ハウス

◀デイハウスせいどう

荒井監事：本日は、小規模多機能型居宅介護事業所の「デイハウスせいどう」と「生活支援ハウス」を見学していただきます。はじめに法人の取り組みをご紹介します、その後に施設概要を報告します。

■法人研究発表会の概要

池淵課長：さかいエリアの「ふれあいの橋の会」は、施設見学に加え、法人の取り組みを紹介することになっています。今回は、毎年開催しています法人研究発表会でデイハウスせいどうの職員が発表した内容を報告します。さかい幸朋苑は、1987年にオープン、10年経過した1997年5月に第1回法人研究発表会を開催しました。当時、福祉業界での研究発表会は、先駆的な取り組みであり、全国から注目されました。過去の報告書を持参しましたが、例えば第5回では30題の発表でしたが、第10回は100題以上と年々増加しています。今年3月に開催しました第30回の記念発表会では、早稲田大学の教授を招聘し講演会も開催しました。 ①

会長や理事長からは、単に事例報告だけでなく、研究的視点をもって学ぶことの重要性が示されています。今回は、デイハウスせいどうの職員が2年前に発表し、優秀賞を受賞した「生産性向上の取り組み」とその後の取り組みを倉光係長から紹介します。

業務改善して捻出した時間を利用者の楽しみの時間に充てるなど、様々な工夫をしています。

■生産性向上の取り組み（法人研究発表会）

倉光係長：今日は、その後どういう取り組みをしてきたかを中心に、報告したいと思います。

※報告内容は、別添「デイハウスせいどう取り組み紹介」をご覧ください。

《実施した業務改善》

記録システムの電子化（令和5年4月～）

- ・手書きサービス記録を段階的に電子記録入力へ変更
- ・パソコン・タブレット・スマートフォンに介護記録ソフトをインストール
- ・訪問時もスマートフォンで現場入力が可能に

業務の無駄削減（令和6年4月～）

- ・事業所内で生産性向上委員会を定期開催
- ・重複業務や慣例的な低重要度業務を精査
- ・法令上不要な業務は可能な限り削減

AIの活用（令和7年4月～）

- ・介護業界特化型 AI 議事録作成アプリ（noman）を法人全体で導入
- ・職員会議やサービス担当者会議で使用し、議事録作成時間が激減
- ・今後、介護支援専門員業務でのさらなる活用可能性を検討

勤務時間の最適化

- ・職員の出勤時間を15分単位で設定
- ・利用者数や支援内容に合わせて勤務時間をずらし無駄を削減

《成果》

- ・残業時間の推移：令和4年度 197 時間→令和5年度 175 時間→令和6年度 160 時間→令和7年度 73 時間 に減少
- ・現場で働く介護士の業務負担が大幅に軽減

《利用者支援への還元》

- ・捻出した時間をご利用者に還元する取り組みを実施
- ・ドライブ・季節行事・外食を毎月実施（花見は10回以上）
- ・利用者の希望を聞き取り、夢や希望を叶える取り組みを継続
- ・職員がゆとりを持って利用者とは会話する時間が増加
- ・利用者・家族から多数の喜びの声を獲得

②





荒井監事：生産性向上に向けた取り組みで、利用者と接する時間が増え、喜ばれていることが報告されました。委員の皆さんからの質問をお願いします。

遠藤委員：残業の時間の減り方がすごいですね。AIの活用や無駄な作業を見直すことでの効果が数字に表れていますね。

川口委員：職員から考えると、残業時間が減って収入が少なくなるので、不満が出るのではないですか。

倉光係長：ご利用者からの喜びを聞くことができますので、職員も喜んでいます。ご利用者との会話の時間も増え、外にお連れする回数も増えています。給与については、毎年処遇改善がなされています。

荒井監事：出勤時間を15分単位で設定していますが、具体的にはどういう取り組みですか。

倉光係長：デイハウスは、利用者の時間帯が毎日異なります。その日の利用者の人数、利用時間帯等の予定に合わせて、職員の出勤時間を調整しています。そのことによって、効率的で無駄がなくなります。日々の積み重ねで、結果が出ると思います。

■施設の概要

倉光係長：デイハウスせいどうは、小規模多機能型施設で、「通い」「訪問」「泊まり」のサービスを同一事業所で一体的に受けられます。現在の登録者数は27名、男性10名、女性17名、要支援者3名、要介護者24名、平均介護度2.0です。

隣接する生活支援ハウスは、市からの委託事業で、定員20名ですが、現在は13名が入居され、男性7名、女性6名が利用されています。生活支援ハウスは、基本的には自分のことは自分でできることが条件です。入居が長くなると、年齢とともに、体調が悪化していろいろな支援が必要となり、入院、退居に繋がります。

デイハウスの主な活動は、季節の行事、外出、外食、家庭菜園、ボランティア団体の受け入れなどがあります。また、定期的にInstagramにて情報を発信しています。

12月にはクリスマス会、1月は初詣、4月は花見・・・と続きますが、皆さんにお出かけしてもらうため、何回も往復します。その他、プランターでの野菜作り、ボランティアは、角ファミリーバンドや紙芝居の会などが来苑されています。研究発表会の内容で説明したように、**捻出した時間をご利用者のために使っていこう**という取り組みです。

③



荒井監事：6月の法人連絡会議の資料に、クルーズ船の船内見学を継続的に実施できるよう船会社に依頼したということですが、経過はどうか。

倉光係長：船内見学は濱田総合施設長が予めより交流があった韓国の方が運営に携わるイースタンヴィーナス号で実施されました。他の船では船内見学はできませんが、岸壁から外観を眺めるだけでもご利用者に楽しんでいただこうと、境夢みなとターミナルに寄港するスケジュールに合わせ、案内しています。先日もダイヤモンド・プリンセス号を眺めに行きました。

遠藤委員：シルバーハウジングから生活支援ハウスに転居した人を知っていますが、とても元気になっています。きちんと食事をすることは、大事ですね。

荒井監事：本日訪問する前に周辺を探索しましたが、隣接して流れる農業用水路の五ヶ井出川沿いが草茫々な状態でした。中本委員は自治会長をされていますが、どのような現況ですか。

中本委員：誠道小学校が存続していた時代は、自治会が率先して除草作業をしていましたが、現在は、五ヶ井出川管理者組合と境港市、自治会で調整がつかず放置されています。今後も話し合いの場を設けたいと思っています。

植田委員：市内全域で一斉清掃の日を設定していますが、近年は徹底されない自治会もあり、中には「道路や川の掃除は市役所がすればいい」と言う人がいて困っています。みんなで町をきれいにするという意識を高める必要があると感じています。



■施設内外の点検・提言

荒井監事：施設内外を見学していただきました。配布しました評価表（①建物、施設内、周辺 ②職員の態度、接遇 ③ご利用者へのサービス ④地域交流）のチェック項目を照合し、気づいた点を指摘してください。

遠藤委員：顔見知りの方がいたので、施設での感想を聞いてみました。「ここはいい所だよ、毎日楽しい」と話されていました。

倉光係長：通いと訪問と泊まりを柔軟に提供できるのが、小規模多機能の良さですね。一人暮らしの方が今年の初めに発生した地震や大雪の日に不安になり、急遽泊まっていただきました。部屋が空いてれば泊まっていたり、予定外の利用ができるようにしています。一人暮らしの人や高齢のご夫婦世帯にとっては、すごくいいサービスだと思います。

川口委員：不安を感じた時に相談でき、対応していただけるというのは、安心につながります。

荒井監事：地域との交流は、どうされていますか。

倉光係長：デイハウスせいどうの祭りを開催した際には、多くの地域の皆さんに参加していただいています。誠道地区の市民運動会にも参加しています。

中本委員：旧誠道小学校は、サッカー・ガイナレが利用していますので、誠道地区は、さかい幸朋苑のナマステホールを借りて市民運動会を開催しています。

植田委員：誠道地区には、ナマステホールがあるので、便利ですね。敬老会や運動会など、地域行事を開催する際に雨天時でも安心して利用できるのも、他地区からみれば羨ましいかぎりです。

荒井監事：ナマステホールは、境港市と幸朋苑が出資し、コミュニティホールとして建設したものです。来年は開設30周年になりますが、多くの市民の皆さんに利用していただきたいと考えています。

中本委員：みなとテラスのオープン時に、全地区を対象とした敬老会を開催されましたが、現在は地区単位での敬老会に戻しています。内容も地区によって様々です。

池淵課長：介護サービスは、ご家族のニーズから利用が開始されることが多いですが、ご利用者にとって魅力のあるサービスが提供され、**本人が主体的に利用したいと思ってくださることがとても大事だ**と思っています。在宅で暮らし続けるためには、認知機能や身体機能をいかに維持できるかが重要です。ご利用者が主体的に楽しみながら、頭を使い、体を使う機会がたくさんあることによって、その機能が維持されていきます。その点でデイハウスせいどうの取り組みは、大きな役割を果たしてくれていると思います。

遠藤委員：上道公民館で「百歳体操」をしています。新さかい幸朋苑のご利用者も参加していただいています。小学校の支援学級の児童も参加しましたが、みんなの笑顔が広がっていました。

川口委員：ご利用者が何を望んでいるのか、地域と施設が一緒になって考えていかないといいけませんね。

荒井監事：次回は、7月16日（木）10：00～ グループホームあがりみち、デイハウスあがりみちです。



活動記録 ★★★★★

